

## マダガスカル

### 主要データ

国名〔英名〕	マダガスカル共和国〔Republic of Madagascar〕
面積(km <sup>2</sup> )	587,040
海岸線延長(km)	4,828
人口(百万人)	20.8
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	35.4
GDP(百万US\$)	8,551
一人当りGDP(US\$)	412
主要鉱産物：鉱石	クロム
主要鉱産物：地金	—
鉱業管轄官庁	エネルギー鉱山省 (Ministere de L' Energie et des Mines) 鉱山地質局 (Direction des mines et de la geologie)
鉱業関連政府機関	Bureau de Recherches Geologique et Minieres (BRGM)
鉱業法	鉱業法 (Mining Code、2005年一部改正) Large Mining Investment Law (2002年)
外資法	—
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	—
鉱業公社	Kraomita Malagasy SA
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	2009年3月新大統領により既鉱業契約の見直しが発表され、政府内で検討が進む
2009年のトピックス	2009年9月、Soalala 鉄鉱床の国際入札で、武漢鋼鐵(中国)と錦興国際控股(香港)のJVが落札し、探査・開発権を取得した

### 1. 鉱業一般概況

マダガスカルにおける鉱業の現状は、高い資源ポテンシャルを持っているにもかかわらず、未だ十分な開発が行われてこなかったが、2008年12月末に、QIT (QIT Madagascar Minerals) (出資比率 Rio Tinto 80%, マダガスカル政府 20%) が、チタンの原料となるイルメナイト精鉱の生産を開始した。それまでは、2005年時点においては、鉱業は同国GDPの1%未満、就労人口1%と、経済的に低い位置に留まっていた。

現在主に生産されているのはクロム鉄鉱石、イルメナイト精鉱であるが、ポテンシャルが確認されている鉱物資源として、金、ニッケル、コバルト、銅、鉛、亜鉛、白金族、ポーキサイト、エネルギー資源として、ウラン、石炭、石油など、多岐にわたっている。しかしながら、主にインフラ未整備のため、それらは開発されるまでに至っていない。

鉱業投資に関する法整備等進められ、鉱業投資が各社により進められていたが、2009年3月に軍事クーデターが発生し、ラジオリナ・アンタナナリボ市長が大統領に就任したが、国際社会の信認が得られず、フランスを除く各国の援助が凍結されており、孤立している状態である。クーデターの直後に、大統領が鉱業権の見直し及び取消しに言及したが、各企業は、粛々とプロジェクトを実行した。

2009年4月、同国首相が、マダガスカル政府は同国の鉱業契約の見直しに取り組んでいるものの、鉱業権の取り消しは検討していないことを発表した。

2009年9月、Soalala 鉄鉱床の国際入札で、武漢鋼鐵（中国）と錦興国際控股（香港）のJV企業が落札し、探査・開発権を取得した。

2007年11月に鉱山建設を開始した Ambatovy ニッケル・コバルト・プロジェクトは、2010年12月に建設が完了し生産開始し、2013年にフル生産に達する予定である

## 2. 鉱業政策の主な動き

2009年4月 政府が鉱業契約見直しに着手したことを発表した。なお、鉱業権取り消しについては検討していないことも合わせて発表した。

## 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

### (1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表 3-1. マダガスカル：金属鉱石生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)
クロム	120	100	120	20.0

(WMSY2010)

### (2) 主要非鉄金属地金生産量

表 3-2. マダガスカル：金属地金生産量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)
該当なし				

### (3) 主要非鉄金属消費量

表 3-3. マダガスカル：金属地金消費量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)
該当なし				

### (4) 主要非鉄金属輸出量

表 3-4. マダガスカル：精鉱中含量・地金輸出量

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	2009年	2009年増減比 (%)	主な輸出相手国 (3か国程度)
該当なし					

## (5) 主要非鉄金属輸入量

表 3-5. マダガスカル：精鉱中含量・地金輸入量

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009 年増減比 (%)	主な輸出相手国 (3 か国程度)
該当なし					

## 4. 鉱山・製錬所状況

現在、小規模生産を除いては、1 箇所でクロム鉄鉱鉱山が生産を行っているのみである。政府所有の Kraomita Malagasy 鉱山 がクロマイト精鉱を生産しており、2008 年の生産量は 84 千 t (2007 年 122t) であった。主に中国、日本、スウェーデンに輸出されている。

また、2008 年 12 月末に、QIT が、チタンの原料となるイルメナイト精鉱の生産を開始した。

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (権益 : %)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
該当なし				

表 4-2. 製錬・精製所生産状況

鉱山名	権益所有企業 (権益 : %)	鉱種	生産量 (千 t)	備考
該当なし				

## 5. 探鉱状況

(1) 開発・建設段階 (鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

ニッケル、Ambatovy、Sherritt International Corp

(2) 企業化調査段階 (鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

鉄、Bekisopa、Wuhan Iron and Steel Group Corp

(3) 鉱床能力の評価段階 (鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

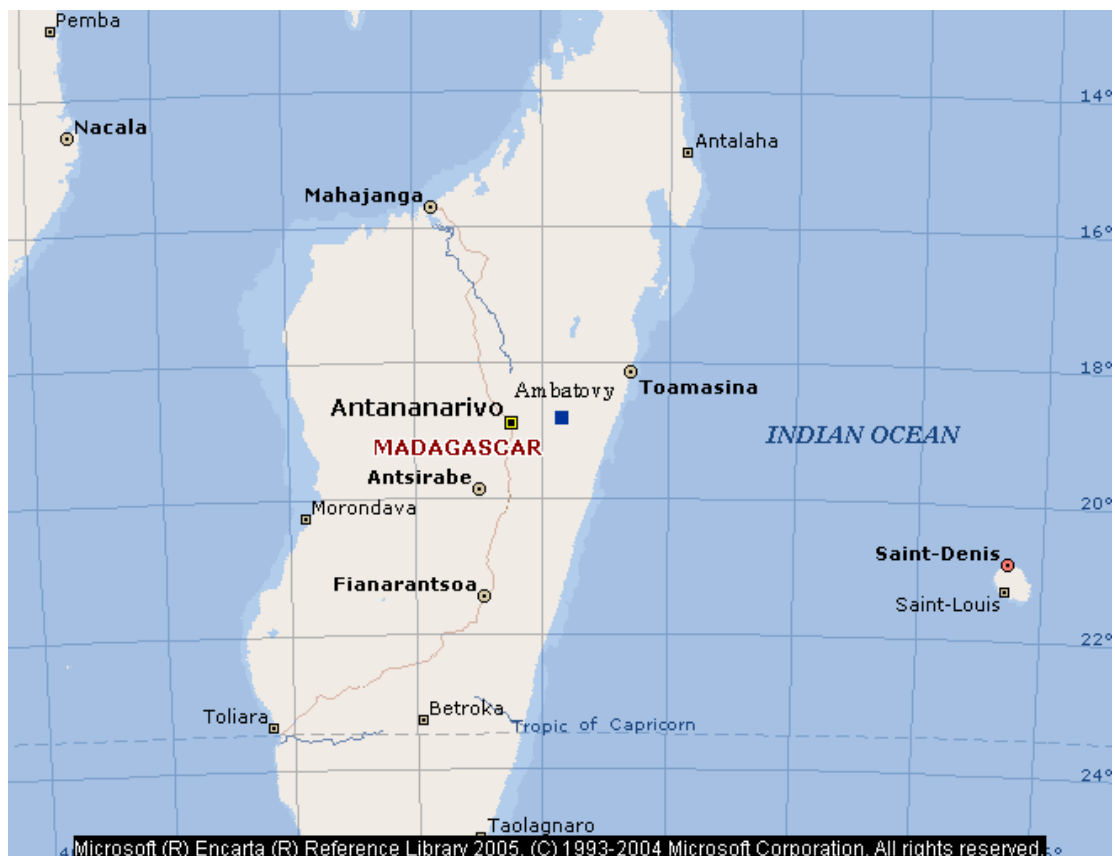
ニッケル、Valozoro、Diamond Fields International Ltd

(4) 鉱床規模の把握段階 (鉱種、プロジェクト名、オペレーター)

ウラン、Morondava、UMC Energy p l c

(5) 初期探鉱段階 (鉱種・プロジェクト名・オペレーター)

銅、Maralambo、NGM Resources



Ambatovy ニッケル・プロジェクト位置図

## 6. 我が国との関係

### (1) 日本への輸出

表 6-1. マダガスカルからの日本への精鉱・地金輸出入量 (※含量ベースかマテリアル量かを明記)

(単位：千 t)

鉱種	2007 年	2008 年	2009 年	2009/2008 (%)
該当なし				

### (2) 日本企業による投資状況等

現在建設中のAmbatovyニッケル・コバルトプロジェクトには、27.5%の権益で住友商事が参画し、プロジェクトの総括的な管理、マーケティング、財務を担当し、生産ニッケル地金のうち半数の3万t/年の購入権を保有(15年間)している。なお、2010年12月に建設工事を完了し生産開始、2013年にフル生産に達する予定である。

## 7. その他トピックス

2010年7月、韓国鉱物資源公社(KORES)は、Ambatovyプロジェクトの権益2%の売却先となる優先交渉対象者として、現代総合商事(韓国)を指名した。韓国コンソーシアムは、住友商事と同様に年間生産量の半数である3万t/年の権益を保有しており、その量は韓国の国内消費量の25%に相当する。

(ロンドン事務所 竹谷正彦)